

生体認証機能を活用した放射線治療情報管理システムの運用

みやぎ県南中核病院 放射線部 渡邊 暁 先生

概要：

当院は 2013 年 8 月より新規に放射線治療を開始し、それに伴い放射線治療情報システム KRatis(KOSEKI)を採用しカスタマイズを行った。特徴としては、高齢者の多い地域における問題（紙書類や診察券の紛失等）と外来患者にはリストバンドが着用されないことを考慮した本人確認のための指静脈認証システム（図 1）、患者固定具等の確認を行うためのインルームモニターを用いたセットアップノート（図 2）、タブレットを用いた患者観察記録（図 3）、医師の指示、治療計画内容確認のための業務フローナビゲーションシステムが挙げられる。放射線治療情報管理システムは ARIA (VARIAN) が採用されている。

指静脈認証は、放射線治療受付および治療室入口にて行い、都度患者ステータスが変わるため（図 4）治療当日の患者状況把握が容易となる。2 度の認証を行うことにより ARIA Queue に患者氏名が表示され ARIA 患者データの展開が可能となる。尚、患者データの展開には患者が持参する外来基本カードに標記されるバーコードを使用するが、入室患者とバーコード情報が一致しない場合にはデータは展開しない。

業務フローナビゲーションシステムは医師の指示入力、技師による治療計画内容確認（図 5）、患者毎の計画進行状況確認（図 6）をサポートする。

このシステムは、患者のプライバシー、ダブルクリックおよび紙運用におけるヒューマンエラー、医師及び看護師とのコミュニケーションを考慮したシステムとなっている。



図 1

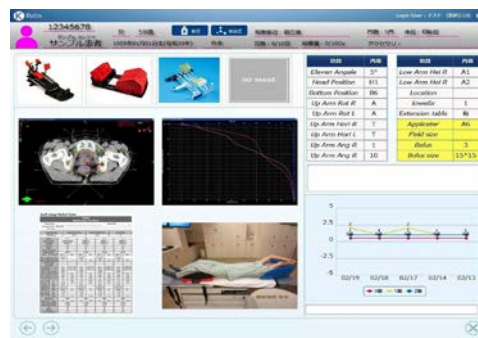


図 2



図 3



図 4



図 5



図 6